

## 地域資料の紹介

『古地図と名所図会で味わう 江戸の落語』

著/菅野俊輔

出版/青春出版社

出版年/2010年

請求記号/GB77

古典落語は、現代では理解しがたい表現(言葉・風習・慣習・背景など)が多く出てきます。さんまは下魚で、お大名がクチにするなんてとんでもない!という背景から滑稽漸に発展する「目黒のさんま」など、12題を収録。古地図からは作中の移動距離なども分かり、更に面白みが増します。

## はっぴいコーナー

このコーナーでは、世田谷区の障がい者施設で作られた商品、「はっぴいハンドメイド」のご紹介をします!

白梅福祉作業所

アクリルたわし

ひとつひとつ手編みで作られているアクリル製のたわしです。大掃除のお供におひとついかがでしょうか?

¥200



掃除が楽しくなる  
可愛いたわしです★

## 図書館スタッフからのおすすめ本(テーマ:果物・果実)

『オレンジの歴史(「食」の図書館)』

クラリッサ・ハイマン著 大間知知子訳 原書房 2016年刊

甘くてジューシー、ちょっぴり苦いオレンジは、エキゾチックな富の象徴。芸術家の灵感の源でした。原産地は中国で、その後世界中に伝播し、日本でも温暖な場所で作られています。オレンジは一体どうやって全世界に広まっていったのでしょうか。文化(園芸・絵画)に食生活に、残した足跡を辿りながら、オレンジ(みかん)を見てみてください。中世ヨーロッパ、ベルサイユ宮殿ですすでに、オレンジを育てるための温室が建設されはじめ、大ヒットの果物となりました。その後、アメリカで協同組合ができ、オレンジジュースが一般的に広がりました。

この本の最後に、オレンジを使った料理を紹介していますので作ってみてください。

請求記号:625は

『ストロベリーライフ』

荻原浩著 毎日新聞出版 2016年刊

「何を為すために自分は生まれてきたのか。

やっとわかった。

三十七年かけて。」

田舎の父親が病気で倒れたことをきっかけに、家業である農業を手伝うことになる主人公。次第にイチゴ作りの魅力に気付きはじめます。

読後感ほっこり。美味しいイチゴが食べたくなること間違いなしです。

請求記号:F1お

『まるまる、フルーツ(おいしい文藝)』

青木玉[ほか]著 河出書房新社 2016年刊

日本のくだものはとてもおいしく、海外でも人気ですね。

この本は、42人の作家による果物エッセイです。

おのおの推しフルーツの魅力を語り、思い出を語り、好きな

食べ方を紹介。特に、阿川佐和子さん。つぶした苺に

ブランデーをどぼどぼなんて、おいしさに決まってる。

請求記号:F1ん



『ききりんご紀行』

谷村志穂著 集英社 2016年刊

りんごには様々な種類があります。中でも有名なものが「ふじ」。他にもアップルパイに使われる「紅玉」など、知ってるりんごの名前は出てくるけれど、食べたことないとか、食べたんだけどそこまで美味しいと感じなかったこともあります。そんな声に答えてくれたのが、人気作家の谷村志穂さん。青森のりんご農園からとれたばかりの旬のりんごを送ってもらったら…「こんなにも美味しい果物があったのか」と感動したそうです。りんごが美味すぎて太ってきたというエピソードも入っています。りんごの種類や名前を覚えるのも楽しいと思うので読んでみてください。

請求記号:625た

『柑橘類と文明—マフィアを生んだシチリアレモンから、ノーベル賞をとった壊血病薬まで—』

ヘレナ・アトレー著 三木直子訳 築地書館 2015年刊

著述家であり、庭園を巡るツアーの案内の仕事をしている著者が、庭園を飾る木としての柑橘類やら、いわゆる甘やかされた種ではない柑橘類やらを追求しています。フィレンツェのレモン、シチリア島のオレンジ、ディアマンテのシトロン、カラブリアのベルガモット。観賞・食・香水など、今となっては日本でも身近な植物ですね。

柑橘類を軸に、歴史・宗教・紀行・料理のレシピ、とあらゆる視点からイタリアを垣間見ることができます。

請求記号:220し

『探偵は女手ひとつ —シングルマザー探偵の事件日誌—』

深町秋生著 光文社 2019年刊

30代後半の留美は、元刑事で探偵…の仕事より、農作業の手伝いで食いつたを稼いでいます。

ある日、元上司の警察署長からさくらんぼ窃盗団の犯人探しの依頼を受けるのですが…。「紅い宝石」他、5編収録。

山形弁で交わされる会話が、心地よく物語のリアリティを増しています。

請求記号:B1ふ





## イベントの報告

10月6日(日曜日)14:30~16:00

於 梅丘パークホール

『螢と斧 寺山修司が短歌にこめたこと』

を開催しました。

今イベントでは講師に宮中歌会始の選者を務められている歌人の今野寿美先生をお招きし、寺山修司の短歌について解説していただきました。当日は曇天の中、60名の方にご参加いただきました。今野先生には寺山修司が短歌にこめた両親への思いについて詳しくお話しいただき、参加者のみなさまは興味深そうに聞き入っていました。



## イベントのおしらせ

### 第3回 バック トゥ・ザ 昭和 昭和30年代編

会場: 経堂地区会館 別館

日時: 11月28日(日) 14:00~16:00

定員: 20名(申込制)

費用: 無料

大宅壮一文庫×経堂図書館の連携イベント、『バック トゥ・ザ 昭和』が今年もやってまいりました。

今回は昭和30年代にスポットをあてていきます。クイズやクロスワードを通して昭和を思い出し、写真や雑誌を見ながら語り合しましょう。今回はこれまではなかった参加者同士でクイズを作って出し合うコーナーもあります。詳しくは館内配布のチラシをご覧ください。



## 『大人のための朗読会』のおしらせ

ボランティア団体の朗読による『大人のための朗読会』を開催しています

【11・12月の開催スケジュール】

※演目内容は、変更になることもございます。

11/14(木) 10:30~

もくもくの会 のみなさん

### 演目内容

「バーバーみらい」 原田マハ

「雪の気配」 原田マハ

「ふしゃくしんみょう」 山本有三

12/5(木) 10:30~

木洩れ陽 のみなさん

### 演目内容

「未定」

「未定」

開催場所: 経堂地区会館本館  
2階 第三会議室

本館です

開場時間: 10:15

参加無料、事前申込不要、先着15名までです。

開催が急遽中止・変更になることもございます。

■ホームページ(世田谷区立図書館 HP 内)

<https://libweb.city.setagaya.tokyo.jp/contents?3&pid=86>

■Instagram

@setagaya\_kyodo\_lib



世田谷区立経堂図書館

世田谷区宮城3-1-30 Tel. 5451-0071 FAX 5450-1088

経堂図書館ニュース



2024年11月号(通巻77号)

## 図書館スタッフからのおすすめ本

一年で最も日照時間が短い日である冬至には、無事に冬を越せるようにと、ゆず湯に浸かる習慣があります。ゆずは何年も掛けて実をつけることから「長年の苦勞が実るように」という願いもこめられています。

シトラス系の香りにはリラックス効果もあるので、普段の生活にも取り入れたいですね。

(おすすめ本は見開きに掲載しています)

## 展示コーナーのご案内

毎月、異なったテーマに沿って本の紹介をする、展示コーナーを館内に設けています。ご来館の折にはぜひどうぞ。

一般展示 乗って行こう

展示期間 : 11/22 ~ 1/15

ビジネス展示 新札の偉人 功績と関連する事柄

展示期間 : 10/18 ~ 12/18

※展示場所は変動する場合がございます。ご了承ください。

★ 展示場所 : ビジネスコーナー付近のブックトラック

## 休館日のご案内

今月・来月の休館日は、以下の通りになります。

11月21日(木)  
12月19日(木)・29日(日)~1月3日(金)